

《資料2》

〇〇年度 自立活動の個別の指導計画（例 Aさんのケース）

学年組	中学1年 知的障がい学級	氏 名	A
障がいの種類程度や 状態、起因疾患等	自閉症、知的障がい		

1 実態把握（1）

① 発達や経験の程度、興味・関心、学習や生活の中で見られる長所や良さ、課題等についての情報収集	
学習状況	学年相当 / 下学年(年生程度) / <u>知的代替</u> / 自立活動重視 その他()
	自立活動の時間における指導の週単位時間 ()時間/週
発達や経験の程度	
興味・関心 苦手なこと	好きなこと 得意なこと
	苦手なこと
学習や生活の中 で見られるよさと 課題	良さ
	課題
自立活動の学びの履歴	
現在の生活や 進路に関する希望	
3年後のめざす姿	

1 事態把握（２）

2 指導すべき課題の整理（１）

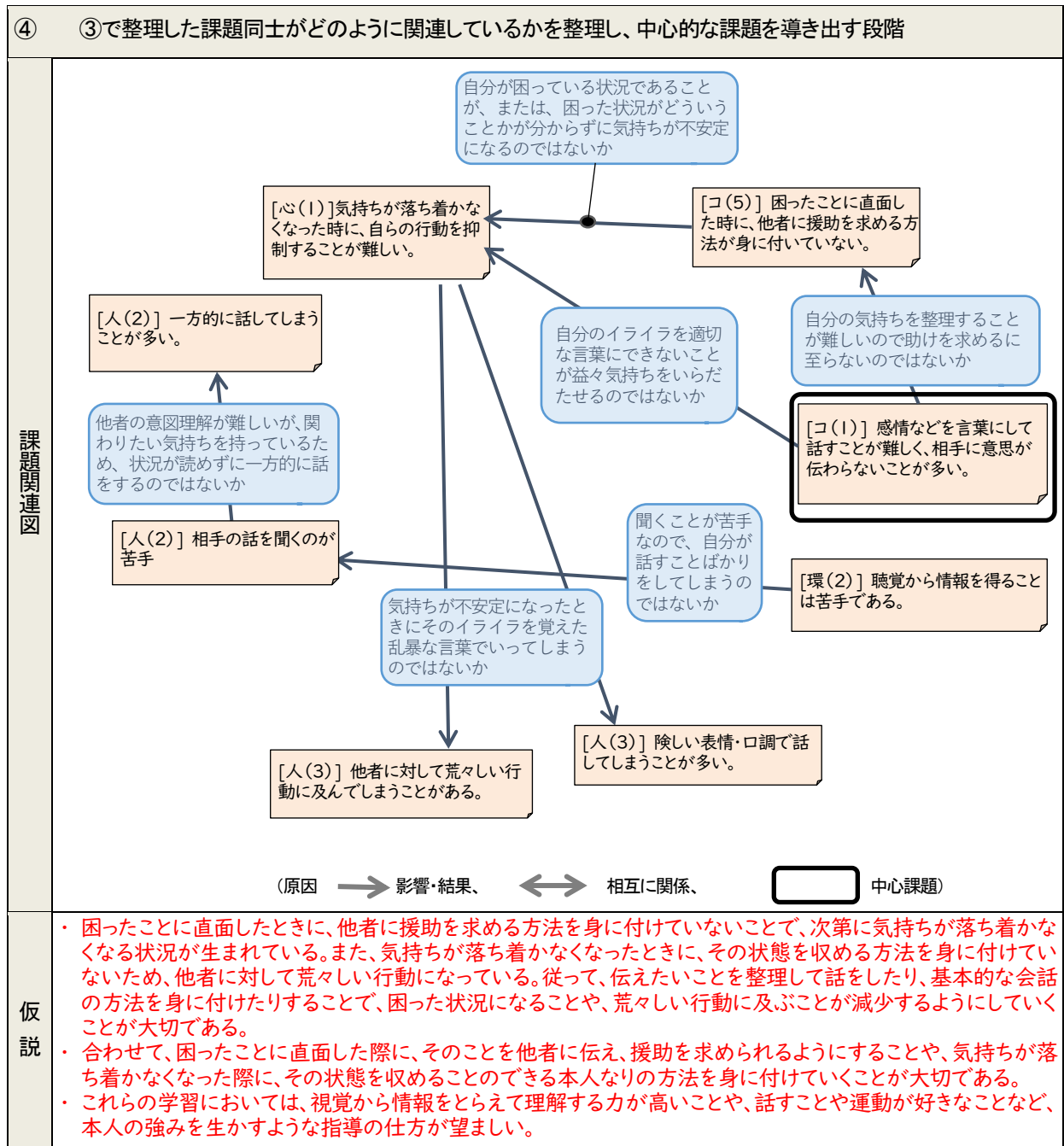
②-1 収集した情報①を自立活動の区分に即して整理する段階					
健康の保持	心理的安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
運動が好きで、進んで体を動かしている。 *できている	・気持ちが落ち着かなくなった時に、自らの行動を抑制することが難しく、他者に対して荒々しい行動に及んでしまうことがある。 *一般就労を目指すことから行動のコントロールは重要	(1) 険しい表情・口調で話してしまうことが多く、相手に動揺を与えてしまうことがある。 *関わりたい気持ちはある *卒業後に企業就労を見据え、会話が弾むような人間関係を築けるようになってほしい	(2) 聴覚から情報を得ることは苦手である。 *会話でのコミュニケーションで聞くポイントを押さえられるといい	(2) 運動が好きで、進んで体を動かしている。 *できている	(5) 困ったことに直面した時に、他者に援助を求める方法が身に付いていない。 *困った状況を解決できなくてイライラにも繋がる *卒業後の企業就労を見据え、必要な連絡相談等ができてほしい
		(2) 一方的に話してしまうことが多く、相手の話を聞くのが苦手なため、会話が成立しにくい。 *上記の同じ	(2) 視覚から情報をとらえて理解することは得意である。 *得意なところ		(1) 感情などを言葉にして話すことが難しく、相手に意思が伝わらないことが多い。 *上記の同じ

②-2 収集した情報①を学習上又は生活上の困難や、これまでの学習状況の視点から整理する段階	
*②-1にメモを記入	※(今回は)見送る課題 ※見え消し ・「配慮でOK」: 課題があっても教師が配慮すれば対応できること ・「できつつある」: できるようになってきたこと、日常に汎化していく段階にあること ・「変容見られず」: 指導したがあまり変容が見られないこと ・「現在まだ」: 現在の生活に影響が少ないと考えられること ・「定型発達範囲」: 定型発達の範囲と考えられること ・「教科」: 教科の内容であること 等 ※その他

②-3 収集した情報①を3年後の姿の観点から整理する段階	
*②-1にメモを記入	★: 本人や保護者の意向及び3年後の姿や高等部卒業後の姿から重視した課題

③ ①をもとに②-1、②-2、②-3で整理した情報から課題を抽出する段階
*②-1の太枠セル又は色つきセル。

2 指導すべき課題の整理（課題関連図と指導の仮説）



3 指導目標（ねらい）の設定

課題同士の関係を整理する中で今指導すべき目標として

⑤ ④に基づき設定した指導目標を記す段階

【指導目標】 一方的に話すことを調整しながら、伝えたいことを整理して話すことができる。

4 指導目標を達成するために必要な指導項目の選定と項目間の関連付け

5 具体的な指導内容の設定

【指導目標】	一方的に話すことを調整しながら、伝えたいことを整理して話すことができる。				
指導目標を達成するために必要な項目の選定					
⑥ ⑤を達成するために必要な項目を選定する段階			*必要な項目にチェック		
健康の保持	心理的安定	人間関係の形成	環境の把握	身体の動き	コミュニケーション
(1)生活のリズムや生活習慣の形成に関する事	(1)情緒の安定に関する事	(1)他者とのかわりの基礎に関する事	(1)保有する感覚の活用に関する事	(1)姿勢と運動・動作の基本的技能に関する事	(1)コミュニケーションの基礎的能力に関する事
(2)病気の状態の理解と生活管理に関する事	(2)状況の理解と変化への対応に関する事	(2)他者の意図や感情の理解に関する事	(2)感覚や認知の特性についての理解と対応に関する事*	(2)姿勢保持と運動・動作の補助手段の活用に関する事	(2)言語の受容と表出に関する事
(3)身体各部の状態の理解と養護に関する事	(3)障害による学習上又は生活上の困難を改善・克服する意欲に関する事	(3)自己の理解と行動の調整に関する事	(3)感覚の補助及び代行手段の活用に関する事	(3)日常生活に必要な基本動作に関する事	(3)言語の形成と活用に関する事
(4)障害の特性の理解と生活環境の調整に関する事*		(4)集団への参加の基礎に関する事	(4)感覚を総合的に活用した周囲の状況についての把握と状況に応じた行動に関する事*	(4)身体の移動能力に関する事	(4)コミュニケーション手段の選択と活用に関する事
(5)健康状態の維持・改善に関する事。			(5)認知や行動の手掛かりとなる概念の形成に関する事	(5)作業に必要な動作と円滑な遂行に関する事	(5)状況に応じたコミュニケーションに関する事
⑦ 項目と項目を関連付けるポイント					
・ <伝えたい内容を整理して話せるように>(環)(2)と(コ)(1)とを関連付けて設定した具体的な指導内容が、⑧アである。 ・ <相手の話を聞いて、穏やかに話せるように>(人)(2)と(環)(2)と(コ)(5)とを関連付けて設定した具体的な指導内容が、⑧イである。 ・ <落ち着かない気持ちを収められるように>(心)(1)と(人)(3)とを関連付けて設定した具体的な指導内容が、⑧ウである。					
選定した項目を関連付けて具体的な指導内容を設定					
⑧ 具体的な指導内容を設定する段階					
具体的な指導内容	ア 相手に伝えなければならない事柄を、いつ、どこで、どうしたいかなどの項目を示した資料を見ながら、順番に話す。		イ 日常の会話の様子を動画で撮影し、省みるようにすることで、相手の話を聞きながら話したり、穏やかな口調や表情で相手に接したりするよう意識する。		ウ 気持ちが不安定になったときには、その場を一時的に離れ、体を動かすなどして発散できるようになる。